

NTT西日本沖縄支店・ほっともっと沖縄地区本部 特別協賛

第45回新報児童オリンピック大会

開催要項

- 1 趣 旨 沖縄県で学ぶ児童の健やかな成長を願い、各種スポーツ活動を通して、児童の健全なる心身の発達とスポーツの普及発展に寄与する
- 2 主 催 琉球新報社、(一社)沖縄陸上競技協会、(一財)沖縄県バスケットボール協会、沖縄県バレーボール協会、(一社)沖縄県サッカー協会、沖縄県ハンドボール協会、(一社)沖縄県水泳連盟、沖縄県卓球協会、沖縄県柔道連盟、沖縄県バドミントン協会、沖縄県テニス協会
- 3 共 催 (公財)沖縄県スポーツ協会
- 4 特別協賛 NTT西日本沖縄支店、ほっともっと沖縄地区本部
- 5 協 賛 スポーツデポ
- 6 後 援 沖縄県、沖縄県教育委員会、沖縄市教育委員会、那覇市教育委員会、豊見城市教育委員会、南城市教育委員会、西原町教育委員会、宜野湾市教育委員会、NHK沖縄放送局、沖縄テレビ放送、ラジオ沖縄、エフエム沖縄、沖縄県総合運動公園管理事務所(指定管理者：株式会社トラステック)
- 7 期 日 2025年6月29日～9月14日
- 8 会 場 沖縄本島各地の体育施設・小学校
- 9 実施競技 陸上、ミニバスケットボール、バレーボール、サッカー、ハンドボール、水泳、卓球、柔道、バドミントン、テニス
- 10 参加資格 本県に在住する小学生男女(実施競技団体の大会要項に準ずる)
- 11 参加申込 実施競技団体の大会要項に準ずる
- 12 競技形式 実施競技団体の大会要項に準ずる
- 13 表 彰 各競技の団体、個人とも1位～3位まで琉球新報社から賞状とメダルを授与する
- 14 災害時対応 台風などによる自然災害、または感染症などの拡大による大会運営中止の判断については、各競技団体や会場側との協議によって決定する。バスなどの交通機関が運行停止となった場合は開催を中止する。競技開始後の判断については各競技団体の責任において決定する。

ごあいさつ



大会会長 普久原 均
(琉球新報社 代表取締役社長)

小学生のスポーツの祭典「第45回新報児童オリンピック大会」を今年も開催できますことを、各競技団体の関係者と共にお喜び申し上げます。

「新報児童オリンピック大会」は1981年、海邦国体「少年の部（高校生）」の選手育成を目的に、小学生を対象に始まりました。当時、県内ではスポーツの基礎となる「走る、跳ぶ、投げる」を競う陸上競技大会が少なく、弊社が提案し、沖縄陸上競技協会の協力を得て、第1回大会（陸上競技のみ）を開催いたしました。

第10回記念大会から卓球、ミニバスケットボール、水泳、サッカー、ハンドボール、バレーボールを加え、第11回大会に柔道、第12回大会にバドミントンとテニス加わって計10競技に増えました。毎年1万人以上の小学生が出場する県内最大規模の総合体育大会になっています。特に小学校低学年の児童が活躍できる数少ない場としても、意義の大きな大会となっております。

今年も真夏の暑さにも負けない熱戦が各競技で繰り広げられることを期待しています。

結びに、準備や運営に大変なご苦勞をいただきながら、子どもたちの活躍の場を設けてくださっている各競技団体の役員、並びにスタッフの皆さまのご協力、そして特別協賛を賜りましたNTT西日本沖縄支店様、ほっともっと沖縄地区本部様のご支援に心から御礼を申し上げます。

2025年 盛夏

第45回新報児童オリンピック大会役員

大会会長	普久原 均	琉球新報社 代表取締役社長		
大会副会長	松田 保	(一社) 沖縄陸上競技協会 会長	日越 延利	(一財) 沖縄県バスケットボール協会 会長
	新城 武	沖縄県バレーボール協会 会長	具志堅 侃	沖縄県卓球協会 会長
	田平 敬志	(一社) 沖縄県サッカー協会 会長	川満 正芳	(一社) 沖縄県水泳連盟 会長
	玉城 智	沖縄県テニス協会 会長	上江洲 智明	沖縄県柔道連盟 会長
	新里 登	沖縄県バドミントン協会 会長	宮城 靖	沖縄県ハンドボール協会 会長
大会顧問	渡嘉敷 通之	(公財) 沖縄県スポーツ協会 理事長		
大会参与	具志堅 進	(一社) 沖縄陸上競技協会 副会長	豊里 勝	〃
	大城 悦子	〃	島袋 京美	〃
	田里 一美	沖縄県バレーボール協会 副会長	砂邊 昭利	(一社) 沖縄県水泳連盟 副会長
	川田 学	〃	慶留間 保信	〃
	上原 靖	〃	森山 主税	〃
	宇地原 光	〃		
	上江洲 学	沖縄県テニス協会 副会長	津波古 昌勝	(一社) 沖縄県サッカー協会 副会長
	松浦 悦子	〃	内間 直之	〃
	稲福 盛也	(一財) 沖縄県バスケットボール協会 専務理事	崎原 永克	沖縄県柔道連盟 副会長
	稲福 正	沖縄県ハンドボール協会 副会長	伊禮 実	〃
	東江 正作	〃	天久 功一	〃
	東江 功子	〃	前田 務	沖縄県バドミントン協会 副会長
	黒島 宣昭	〃	安次富 利恵子	〃
運営委員長	島 洋子	琉球新報社 取締役統合広告事業局長		
運営委員	宮里 朝之	(一社) 沖縄陸上競技協会 専務理事		
	川田 学	沖縄県バレーボール協会 理事長		
	宮城 淳也	(一社) 沖縄県サッカー協会 専務理事		
	高江洲 武	沖縄県バドミントン協会 理事長		
	下地 誠	沖縄県テニス協会 理事長		
	比嘉 光子	沖縄県卓球協会 副会長		
	佐藤 新	(一社) 沖縄県水泳連盟 理事長		
	横田 三四郎	沖縄県柔道連盟 理事長		
	島袋 伸	(一財) 沖縄県バスケットボール協会 U-12部会長		
	根路銘 達也	沖縄県ハンドボール協会 理事長		
	仲原 崇夫	琉球新報社 統合広告事業局 事業統括局長		
	滝本 晃子	琉球新報社 統合広告事業局 事業グループ長		
運営事務局	今井 勇介	琉球新報社 統合広告事業局 事業グループ		
	渡真利 優人	〃		

令和7年度 沖縄県バスケットボール協会U12部会
沖縄県ミニバスケットボール夏季大会

監督会議

ミニバスケットボールの精神
友情・ほほえみ・フェアプレー

令和7年7月19日(土)
場所：恩納村ゆうなホール

受付時間
会場校・シード校 13:30～
一般抽選 14:30～

会 順

司会 総務委員会

1	開会のあいさつ	副会長	金城	弘樹
2	主催者あいさつ	県協会専務理事	稲福	盛也
3	夏季大会について ※優勝旗返還 男子 佐敷小学校 女子 中原小学校	U12部会長	島袋	伸
4	抽選について	競技委員長	比嘉	徹
5	抽選	競技委員会		
6	申し合わせ事項について	審判長	佐久間	飛人
7	質疑			
8	インティグリティーについて	専務理事	稲福	盛也
9	脳震盪について	医科学	新垣	貴大
10	スポーツ少年団九州地区大会出場校の紹介 全関西大会出場校の紹介	事務局長	比嘉	順一
11	諸連絡	事務局長	比嘉	順一
12	閉会のあいさつ	副会長	久高	徹

- ※1 監督会議に、子供の参加はご遠慮お願いします。
- ※2 監督会議の前に資料を「U12部会速報HP」より各自でダウンロードしてください。
- ※3 監督会議終了後、運営責任者を中心に各会場の打ち合わせをおこないます

第48回 沖縄県ミニバスケットボール夏季大会

第45回 新報児童オリンピック・ミニバスケットボール大会

第6回 ファミンチュカップ

大会要項

○ 趣旨 ミニバスケットボール競技を通して、児童の体力づくりと社会性の育成を図るとともにバスケットボール競技の普及発展を図る

1. 主催 一般財団法人沖縄県バスケットボール協会
2. 共催 (株)琉球新報社
3. 主管 一般財団法人沖縄県バスケットボール協会 U12 部会
4. 特別協賛 (株)沖縄ファミリーマート
5. 協力 (株)モルテン (株)アルペングループ・スポーツデポ
6. 後援 沖縄県教育委員会 宜野湾市教育委員会 南城市教育委員会
7. 期日 2025年8月2日(土)～8月5日(火) **※4日間とも9:00 試合開始**
※開会式・開始式はありません。
8:00 開場 8:15 指導者ミーティング 8:30 練習開始

8. 会場 宜野湾市立体育館 南城市玉城総合体育館
ほかに小学校体育館 計32会場予定

9. 大会方式 トーナメント戦により実施する。

10. 競技規則

- (1) JBAのミニバスケットボール競技規則及び本大会申し合わせ事項を適用する。
- (2) マンツーマンディフェンスの基準規則による。
- (3) 今大会はミニバスケットボール競技規則外の運用に関するガイドラインの3ポイントを適用する。

11. 参加資格

- (1) 2025年度において、都道府県バスケットボール協会を経て、公益財団法人日本バスケットボール協会 U12 カテゴリーに登録されたチームおよび競技者であること。(原則として各学校から男女各1チームとする)
- (2) 選手の年齢は、2025年4月1日時点で12歳未満の者
- (3) ベンチで指揮を執るコーチは、JBA公認E級コーチ以上を保有していること。
- (4) チーム責任者は、チームを代表して対外的な窓口となり、参加にかかる手続き等ができること。また、チームに帯同し、チームの最終責任者として活動できる者であること。

12. チーム構成

- (1) 1 チームにつき、コーチ 1 名、アシスタントコーチ 1 名、マネージャー 1 名、チーム責任者 1 名、選手 10 名以上 15 名以内の合計 19 名以内。
ただし、選手登録が 8 名または 9 名のチームは、登録人数による構成を可とする。
- (2) 選手は保護者の同意を得て参加すること。コーチはチームの指導監督にあたるが、選手の保護者が同伴することが望ましい。
- (3) スポーツ傷害保険等は、各チームで必ず加入しておくこと。
- (4) 参加者の大会期間中の疾病及び傷害については、応急処置のみ行うが、その後の責任は負わない。

13. 表彰 優勝チームに優勝旗、優勝杯、賞状、盾、メダルを授与する。
準優勝、3 位、4 位のチームに賞状、盾、メダルを授与する。
ベスト 8 のチームに賞状、盾を授与する。

14. エントリー変更

- (1) エントリー変更は、各会場大会運営責任者へ、第 1 試合の 30 分前までに申し出なければならない。
- (2) エントリー変更において、選手の変更があってもユニフォーム番号のみの変更はできない。

15. 監督会議【組み合わせ抽選会】 7月19日(土) 恩納村ゆうなホール

会場校・シード校	13:30 受付	14:00 抽選
一般抽選チーム	14:30 受付	15:00 抽選

- ※参加は各チーム大人 1 人とします。子供の参加はご遠慮お願いします。
※申込用紙(紙媒体)を準備してください。会議後、各会場の打合せの時に、会場責任者へ提出してください。

16. 参加上の注意及びその他

(1) 各チーム

◎帯同審判員と帯同コミッショナーを必ず各 1 人ずつ出してください。

◎公認審判員:E級以上とする。

◎帯同審判員のいないチームは参加できません。

- (2) 本大会上位 8 チーム(ベスト 8)は、10 月に開催予定のアーナカップ予選大会への出場へ推薦します。

- (3) チームの都合での大会を辞退する場合は、参加費の返金はありません。

※ R 7 年度 県夏季大会の抽選会について

1 各地区大会での優勝チームをシードとし、第1から第6シードに割り当てる。

1 国頭	今帰仁	1 国頭	本部
2 中頭	高江洲	2 中頭	中原A
3 那覇	松島	3 那覇	石嶺
4 島尻	豊崎	4 島尻	糸満南A
5 宮古	下地	5 宮古	平良第一
6 八重山	大浜	6 八重山	石垣

2 各地区大会での準優勝チームをシードとし、第7から第12シードに割り当てる。

1 国頭	→	名護	1 国頭	→	屋部A
2 中頭	→	山内	2 中頭	→	北谷第二
3 那覇	→	高良	3 那覇	→	城北
4 島尻	→	光洋	4 島尻	→	東風平
5 宮古	→	西辺	5 宮古	→	北
6 八重山	→	登野城	6 八重山	→	海星

3 先の大会（第38回沖縄県ミニバスケットボール冬季大会）でベスト4に入った地区を第13から第16シードに割り当てる。（シード枠オープン）

1 島尻	(大里北)→	上田	1 島尻	(白川)→	佐敷
2 島尻	(長嶺)→	ゆたか	2 島尻	(津嘉山)→	豊崎
3 島尻	(南風原)→	津嘉山	3 島尻	(糸満南)→	白川
4 中頭	(中城)→	中城南	4 中頭	(普天間)→	北玉

※ 抽選について

① 2日目の会場校より ※シード
会場校

※抽選順は①はごろも小⇒②玉城総合体育館は(はごろも小)の反対側へ抽選配置する⇒③その他会場校

男子	ゆたか	光洋	高江洲	山内	はごろも	嘉数	北中城	浜川
	北玉	田場	白川	佐敷	糸満南	豊見城	真嘉比	玉城総合体育館
女子	糸満南	白川	佐敷	北玉	はごろも	嘉数	北中城	山内
	浜川	高江洲	田場	豊見城	ゆたか	光洋	真嘉比	玉城総合体育館

② 1日目の会場校より ※シード
会場校

※抽選は、玉城総合体育館が2日目からの為、残りの17会場校にて抽選を行う。

男子	津嘉山	上田	名護	兼城	船越	長嶺	コザ	諸見	美里
	北谷	中城	志真志	伊波	屋部	港川	浦添	古蔵	
女子	屋部A	津嘉山	上田	兼城	船越	長嶺	コザ	諸見	美里
	北谷	中城	志真志	伊波	名護	港川	浦添	古蔵	

③ 一般抽選前について

1. 離島勢の一回戦の対戦を避けるため、離島のチームから抽選を行う。
(地区の代表理事が世話をする)

2. 残りの監督会議に参加しているチームで抽選を行う。
(国頭、中頭、中頭、那覇、島尻の順に1チームずつ抽選を行う)

3. 監督会議に参加していない残りのチームの抽選を行う。
(本部または各地区代表理事、チーム関係代理者で抽選を行う)

【大会申し合わせ事項】

1. 参加上の注意

- (1) 車は必ず指定された駐車場に駐車すること。(保護者への周知徹底)
- (2) ゴミはチームで責任をもって持ち帰ること。(保護者への徹底)
- (3) 体育館内でガムを食べないこと。
- (4) 鳴り物の応援は禁止とする。
- (5) 外履きと内履きの区別をつけること。(特にアップのとき)
- (6) 学校・体育館の器物を破損させないこと。(破損させた場合は会場責任者へ報告)
- (7) 大会中の事故ケガ等に関して、主催者は応急処置のみを行う。
※選手は必ずスポーツ傷害保険に加入し、参加同意書は各チーム代表者が保管すること。
- (8) 大会1日目、2日目の第1試合の審判は原則としてトーナメント表の○印と◎印のついたチームが行い、T・○は◎印のついたチームが行う。
- (9) T・○については、3日目まで◎がついたチームが行う。
- (10) 1日目・2日目のコミッショナーは帯同とする。(各チーム1名)
- (11) ベスト16のゲームからの審判・コミッショナーは、U12部会で割り当てを行う。

2. 競技上の注意

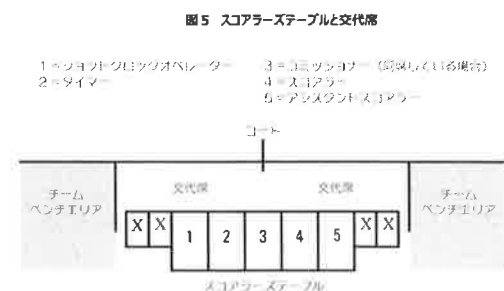
- (1) 2025JBA バスケット競技規則ミニバスケットボールにおける適用規則を適用する。
- (2) ゲームにおけるディフェンスは必ずマンツーマンで行うこと。
- (3) ユニフォームの中から着用するTシャツ・アンダーガーメントについては、ユニフォームと同色、または黒色・白色のいずれかとする。また、全てのチームメンバーの主となる色が同じ色でなければならない。
- (4) ソックスの色は、シャツおよびパンツと異なる色であってもよいが、全てのチームメンバーのソックスの主となる色が、同じ色でなければならない。
- (5) 組み合わせ番号の若いチームは、スコアラーステーブルに向かって右側のベンチとし、ユニフォームは淡色(白)とする。ベンチの交代は認められない。
- (6) 登録協議者が10人以上のチームは10人未満で大会にエントリーすることはできない。また、登録競技者数が大会エントリー数の上限を超えるチームは、大会エントリー数の上限に満たない人数のプレーヤーで大会にエントリーすることはできない。第3クォーターまでに10人以上のプレーヤーが少なくとも1クォーター以上、2クォーターをこえない時間だけはゲームに出場していなければならない。
- (7) 登録競技者が8人以上10人未満のチームは、全ての登録競技者をエントリーすることで、大会にエントリーすることができる。第3クォーターまでに全てのプレーヤーが少なくとも1クォーターはゲームに出場しなければならない。やむをえずクォーターの途中で交代があった場合、それまで出場していたプレーヤーも交代して出場したプレーヤーもその1クォーターを出場したとみなされる。プレーヤーは第3クォーターまでに続けて3クォーター出場してはならない。この条件を満たすために、コート上のプレーヤーを4人以下としてゲームをすることは認めない。

- (8) 10人以上で大会にエントリーしたチームが、大会当日に10名未満しかゲームに出場できない場合や、8人以上10名未満で大会にエントリーしたチームが、大会当日にエントリー数に満たない人数のプレーヤーしかゲームに出場できなかった場合、およびゲーム途中で条件を満たせなくなった場合はゲーム不成立となり没収となる。
- (9) 第3クォーターまでに10名以上のプレーヤーが少なくとも1クォーターはゲームに出場しなければならない。やむをえずクォーターの途中で交代があった場合、それまで出場していたプレーヤーもその1クォーターを出場したものとみなされる。
- (10) プレーヤーは第3クォーターまでに続けて3クォーター出場してはならない。この条件を満たすために、コート上のプレーヤーを4人以下としてゲームをすることは認めない。
- (11) ゲーム開始予定時刻の最低30分前には、各ヘッドコーチまたはその代理者は、ゲームに出場することのできるチームメンバーの氏名と番号、ヘッドコーチやアシスタントコーチの氏名のリストを本部に提出しなければならない。もしゲーム開始後に到着しても、スコアシートに記載されている全てのチームメンバーはゲームに出場することができる。
- (12) 1人以上最大2人のアシスタントコーチを必ず置くこと。チームにアシスタントコーチがいなくても、ゲーム継続担保の配慮から、チーム代表者や保護者代表者をアシスタントコーチおよびチーム関係者としてチーム構成に加えること。
- (13) ヘッドコーチが役目を継続できず、スコアシートに記載されたアシスタントコーチ、チーム関係者も役目を継続できない場合、大会主催者が認めた保護者等がヘッドコーチとして役割を引き継ぐことができる。
- (14) ゲーム中、ベンチから立ち続けて指示できるのは、参加申込書に記載されたコーチ又はアシスタントコーチのどちらか一人とする。同時に2人立つことは認められません。アシスタントコーチは、審判にいかなる場合も話しかけることはできません。
- (15) ゲームは各6分間の4クォーター。第1クォーターと第2クォーターの間、第3クォーターと第4クォーターの間に、それぞれ1分間のインターバルを設ける。また、各オーバータイムの間に2分間のインターバルを設ける。ハーフタイムのインターバルは5分間とする。第4クォーターが終わったときに、得点が同点だった場合、1回3分間のオーバータイムを決着がつくまで必要な回数行う。
- ※オーバータイムの際は、チームファウルは継続する。
- (16) 各チームに認められるタイムアウトの数は、各クォーターに1回、各オーバータイムに1回である。またそれぞれのタイムアウトは、45秒間とする。タイムアウトの請求は、コーチ又はアシスタントコーチがTO席まで出向いて、定められたシグナルで請求する。
- (17) 交代が認められる時機は、次のときに始まる。
- ①第4クォーター・各オーバータイムで、ボールがデッドでゲームクロックが止められたとき。
 - ②最後のフリースローが成功してボールがデッドになったとき。

- (18) 第4クォーター・各オーバータイムで、ゲームクロックが2:00あるいはそれ以下を示しているときに、相手チームがフィールドゴールで得点しても、ミニバスケットボールの競技規則では、ゲームクロックを止める規定は適用しないため、両チームとも交代することはできない。
- (19) 次の場合、ゲームの没収によりチームは負けになる。
- ①ゲーム開始予定時刻から15分過ぎてもチームがコートにいない、もしくはプレーする準備のととのったプレーヤーが5人そろわなかった場合
 - ②ゲームの進行を妨げる行為をした場合
 - ③クルーチーフがすすめたにもかかわらず、なおプレーをすることを拒んだ場合
 - ④規定する出場等の条件をゲーム前、ゲームの途中で条件が満たせなくなった場合
- ※試合開始後に、怪我や退場により3クォーターまでに3回連続出場の選手がでた場合は、ゲームは中断せず、勝ち上がった場合は、没収ゲームとする。
- ⑤試合終了後に、3回連続出場の選手がいることが確認された場合。
 - ⑥没収されたゲームは、20-0で相手チームの勝ちとする。
- (20) 2試合目のチームが1試合目のT・Oを行う場合、両チームがそろい次第、20分間の練習時間を設ける。その中には、試合前10分間インターバルも含む。
- (21) インティグリティ（マナー等）について、コーチの振る舞い（自チーム選手に対しての暴言・暴力）については競技規則に則りテクニカルファウルの対象となります。
- (22) フリースローの際の鳴り物（うちわ、指笛等も含む）応援は禁止とします。
※教育的配慮にご協力をお願いします。
- (23) 3ポイントを導入する。

3. 審判上の注意

- (1) 審判のユニフォームは、審判用のシャツ、黒色の長ズボン、黒色のソックスおよび黒色のシューズとする。（原則夏季のゲームに限り、JBA公認の「セカンドユニフォーム上下」着用を可とする。「セカンドユニフォーム」着用の場合は上下ともセカンドユニフォームとし、審判クルーで同じユニフォームを着用する。ソックスは黒色とする。原則都道府県大会ベスト16以上の公式大会については、従来のJBA公認ユニフォームを着用する。）
- (2) ゲーム開始10分前までに次の事を確認する。
- ①T・Oメンバーの確認
 - ②用具の確認
 - ③得点板（チーム名表示）の確認
 - ④スコアシートの確認
 - ⑤ゲーム用ボールの準備（各チーム1個）
※使用するボールは、クルーチーフが選ぶ。
 - ⑥クルーチーフは、3分前、1分前の合図を行う。



(3) ハーフタイムに次の事を確認する。

①スコアシート確認 (TO と各チームのスコアシート確認)

②ポゼッション・アローの確認 (コートチェンジ)

③10名の選手が出場しているか確認。

④連続2回出場している選手がいるか確認。

※3クォーターの開始前には、10名の選手が出場していること、3回連続の選手がいないことを確認する。ただし、登録が8名のチームにおいては、8名の選手が出場していること、3回連続の選手がいないことを確認する。

(4) ゲーム終了後スコアシートを確認し本部まで提出する。タイマーの計測は両チームそろってから10分間計測する。

(5) 会場により、スローインに支障がある場合は、ディフェンスを1m程度後方に下がるよう指示する。

4. コミッショナー上の確認事項

(1) 参加チームは必ず審判とは別に、帯同コミッショナーを配置する。

(2) 服装は、ホイッスル、襟付きのシャツ、シューズを準備する。

(3) ゲーム開始5分前には、コミッショナーの位置に待機し、次の事を行う。

① コミッショナーの旗、記入用紙の確認をする。

② 両ベンチの監督・コーチ・審判とあいさつをし、コミュニケーションを図る。

③ 審判・TOは、コミッショナーの赤旗でゲームがとまる場面を確認する。

(4) コミッショナーは、ベスト16からはU12部会で割り当てをする。

(5) 監督・コーチは、コミッショナーへのアピールは謹んで、運営に協力する。

(6) コミッショナー席は、可能な限りTOと反対側にする。